

昭和四年三月十五日招集（第四号）  
第一回市議定会例会會議錄



館山市議會第一回定例会會議錄(第四号)

昭和四十二年三月招集

一、三月十五日(水曜日)

一、議事日程(第四号)

議案第三号 昭和四十二年度館山市一般會計予算

議案第四号 昭和四十二年度館山市国民健康保険特別會計

予算

議案第五号 昭和四十二年度館山市簡易水道事業特別會

計予算

議案第六号 昭和四十二年度館山市之畜場特別會計予算

議案第七号 昭和四十二年度館山市休養施設特別會計予算

議案第八号 昭和四十二年度館山市水又テル特別會計予算

議案第九号 昭和四十二年度館山市南部簡易水道事業特

別會計予算

以上各款說明

午前十時四十分

開議

議長(田中禄郎君)

本日の出席議員数 二十四名

これより第一回市議会定例会第四目の会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一 議案第三号及至議案第九号昭和四十二年度一般会計並びに特別会計予算案を一括して議題といたします。

これよりただいま議題となりました各予算案の内容説明を求めます。まづ前例にならしまして議案第三号一般会計予算案の歳出の部より行ないます。

この際各説明者に申し上げます。説明は演壇で重点的かつ簡明適切にお願いいたします。

(財政課長登壇)

財政課長(長谷川広若君)

四十二年度の一般会計予算について御説明申し上げます。

予算書の七ページ第一系として歳入歳出予算総額をそれぞれ十億二千三百十四万九千円といたし、かように考へておるわけでございます。

十億二千三百十四万九千円を財源別に比較いたしますと、新年度一般財源六・三六％、特定財源が三・六四％ということになりました。四十一年度の最終予算額から見ますと一般財源が三・四七％減額をしております。総額を前年度と比較いたしますと二五・九六％の伸張率を見ております。なお四十一年度の最終予算額から見ますと二・六一％という伸張率になっております。二小を三十五年度の決算額に比べますと三十五年度を一〇〇といたしますと四十二年度当初予算は二七・六％という数字に相なっております。本年度大幅に伸びました理由といつたしましては市民センターの一億千七百五十八万南部簡易水道繰り出し金二千六百九十三万令あせまして一億四千四百五十二万余が増額正見ておりますのでそのものがおもな増額の理由でございます。

各款項目につきましては九ページからでござります。各事項別明細書により

細かく御説明申し上げたいと思っております。

第二条に地方債の限度額、目的等について示してございまして、が十七ページ本年年度の適債事業を整理して総額一億一千七百万円の起債を予定してございまして、明細につきましては事項別明細書により御報告申し上げます。四十二年度の一億一千七百万を借り入れいたしますと四十二年度の終了時点におきます起債残額と申し上げますが、未償還額は三億六千七百五十万円程度に相なる予定でございまして、借り入れ方法としては三にありまして、が普通貸借あるのは証券発行のいずれかの方法によりたいという考え方でございまして。

第三条に一時借入金として千五百万という限度額を設定してございまして、これは年度間におきます資金操作をいたしたいということとで、応前年度千五百万円を限度として一時借り入れ金をお認めただければ、ということと計上しております。第四条として弾力規定でございまして、がこれは例年通り給与関係の諸規定を規定したものでございまして。

続きまして事項別明細書により歳出から御説明申し上げます。

二十九ページ議会費におきまして本年度二千三百七十一万七千円を計上いたしております。議会費につきましては定員減によります金額の移動のばかは前年と大差ございませんで説明欄により御了承くださいたいと思っております。

三十四ページ財政管理費から御説明申し上げます。

財政管理費におきまして本年度二十二万六千円を計上いたしまして昨年に比べまして九万二千円の減額になっておりますがこれは予算書の印刷を四十一年度は外注いたしました。が四十二年度は製本機を購入の予定でございますので市内印刷ができるということで減額したものでございませう。他の費目につきましては前年と大差ございませんでそれぞれ説明欄により御了承くださいたいと思っております。

四目会計管理費本年度二十九万九千円でございますがこれも前年に比較しまして五万一千円の減額になっております。この減額の理由といた



しましては予算書同様決算書も市内印刷ができるといふ予定の  
もとに減額したものでございまして他の書目につきましては前年程度  
の額でございまして、これも説明欄により御了承いただきたいと思ひます。  
五目財産管理費として六百七十二万九千円計上いたしました。昨年度  
に比べまして六十七万四千円の増に相なりしておりますが、増の内訳とい  
たしましては昨年十一月から実施されました電話の自動化により、事務  
料金の増加分六十万ばかりが大きき原因でございします。なお貸金関係  
として今年度も市有財産の確認事務と申しますか、市有財産管理  
の事務を前年一年でできる予定でございしましたが、取戻の関係から延び  
まして八月から実施いたしましたために四十二年度も事務を行ないたいと  
いう考へ方で計上しておりますが、それがあつたものでございします。

市有財産関係の事務の内容につきましては、台帳等の事務につきましては  
は大体八〇％完了しております。登記関係につきましては六〇％程  
度現地の確認につきましてはまだ三〇％程度しか確認しておりませんので

四十二年度でふむを〇〇％にしたい。こういう計画で訂正した金額でございませう。その他につきましては昨年度と大差ございせんので説明欄により御了承いただきたいと思ひます。

なお積ましまして九〇〇ページ住宅管理費でございしますが四十二万七千円計上しております。率としては倍額でございしますが増額のおもな理由としていたしましては十一節需用費として十五万工事請負費として井戸排水溝の工事をしていきたいという考え方でございします。井戸排水溝の工事をしていきたいという考え方でございします。

修繕料につきましては建設年度の古い方から担当修繕的なものがふえて参りますので十五万程度の修理をいたしたい。大体修繕箇所は安宅住宅を重点的に考へております。その他につきましては前年と大差ございせんので説明欄により御了承いただきたいと思ひます。

二六ページ公債費でございしますが本年度三万五千五百七十四円二百九十七万二千円増額を見ておりますがこれは年々起債額がふえて参ります。

のでそれに伴いまして償還額も漸次ふえていくことでソロバンの上ですぐはじける数字でございまして本年年度計上いたしましたものでございまして、一時借入金利子と一十八万一千円、先ほど申し上げました千五百万の一時借入金と大体三十一円借りの程度の資金操作が必要ではないかということ、八万一千円計上しております。なお予備費として四十二年度と同額二百万円を計上しておりますがこれは予算外支出あるのは予算超過の支出に向けるために計上しております。以上で私の説明を終わります。

(人事課長兼  
商工観光課長登壇)

人事課長  
兼商工観光課長 (小沢正治)

人事課及び商工観光課所管関係につきまして御説明申し上げます。まず給与関係でございまして、給与総括的に給与明細書と一、二八ペーじから申し上げます。

昭和四十二年度の当初予算に計上されております給与一般会計の総

額といたしまして特別取の数が千三百七十七一般取で三百九十二を前年  
度と比較いたしますと特別取におきまして百十二名一般取で十二名の増加  
でございますが百十二の増加と申しますのは大体に於て選挙の投票立  
会人、管理者、そういうに關係の増でございます。

給与費といたしまして報酬が本年度千九百六十八千円で九十四万三  
千円の増ということでございますがこれは四十七年度中途に於て議員報酬  
の改定が行なわれましてに關係で約九十万の増が生じております、關係  
でございます。

給料の千四百四十五万六千円の増額のおもな理由といたしましては給与改  
訂令が約九百九十六万六千円に なります。

取員手当におきまして八千九百六十二万七千円、千五十四万五千円の増  
この増額の内訳は本年新たにふえましてたものと一、管理取員手当、そ  
れから兼務手当、こういうものがふえておりますが給与改訂を原因と  
する増加分が約四百五十三万三千円含まれております。

その合計が二億七千九百五十万円でございまして、前年の当初予算との比較が二千五百九十四万四千円の増加となつてゐるわけにございまして。

次に共済費が千七百九十六万八千円となりまして、前年との比較が百五十七万五千円の増、総額におきまして二億九千七百一十八万八千円で前年度当初予算が二億六千九百四十九万九千円でございまして、増額が二千七百五十二万九千円というわけでございしますが、四上年度の最終予算におきましてはこの合計が二億八千一十四万四千円となつておりまして、この対比でいいますと約一〇％強の増額ということになります。これがそれだけの款項目の集計の数字でございまして、これらの対象取組の平均年令が三十七才三か月で平均勤続年数が十一年二月、平均給与が三万五千四百九十円と成りまゐります。

次に三八ページ事務改善推進費でございまして、本年度二百七十九万三千円で前年度に比べまして三十三万三千円の減でございしますが、この中でエスター購入が四十一万の三月以来二回支払ひまして、今年度二百二十万円で

弘道総額六百七十万円の支払りが終るわけでございます。これがおもなものでございます。その他につきましては、それぞれ説明欄により御了承いただきたいと思います。

次に三九ページ目諸費でございますが、この関係は大体が交通安全対策費でございます。本年度四百二十三万四千円で大幅な伸びで三百二十八万九千円の増ということでございます。大体が交通安全対策でございます。交通安全運動をあらゆる機関、組織を通じて展開するということに各家庭の中で交通規則を守るという習慣づけを、あちやく実施していただくように、広く交通規則を表示した下敷を配布する、それから道路の安全を確保するために横断歩道や塗装を昨年実施したわけであり、また、バスにこの経費として三十万円工事請負費入で計上、それから歩行者の安全確保の意味から、本年度特に、これも児童の登下校に危険度の高いと思われ、市街地の那、船形、北条、館山さらに、東小学校を対象として、交通安全指導員を採用して、

登下校の専任指導に当たっていただくと同時に教育委員会の方で校内での交通安全教育を取り上げる段階に至っておりまうので、これに協力いただきまして登下校以外の昼間子供たちの交通安全教育の実践活動に当たっていただくということで五名の交通整理員を採用して参りたいという計画でございませう。この貸金といたしまして百四十万円それからさらに現在千葉県の交通安全連合会によります交通相談所を設置して九百万円の予算をもち運営に当たります。これがこれに対する館山市の負担金が千七千円、これを支出して参りますので、今回相談もなるべく外多く出していただく計画ではおりますがさらに市長の方針としてまして市民が安心して相談にのけるように現在の市民相談室と積極的にPRしてまして、交通相談を取り上げていくこと、ことで果との連係は密接にしておりますけれども特に館山市独自の市民に対する交通相談を積極的に取り上げようということと、二応えようという形になりますと専門的な要素が相当入る参りますので、弁護士を依頼すると

いふことで十二万円計上してございます。それからこういう態勢を敷きさらに推進して参ります。たうには交通安全対策協議会、交通安全協会が積極的な協力が要望されるわけでござります。これに對しまして、それ、それ十二万円あるいは二十万六千円の補助金を計上してござります。

その他交通安全運動に関します。横断幕、標識等の経費がそれぞれ各節に計上してあるわけでございます。諸費の中で二十三節と八節の中の姉妹市派遣費、百万円を除きます。ほとんど金額が交通安全対策費というわけでござります。

防犯協力会補助金、十二万円を商工観光課で担当するということ。防犯交通係を置くとありますので、この補助金とここに移動したわけでござります。次に六七ページ第五款労働費でございます。が失業対策関係がなくなり、またその労働諸費だけにたわけてござります。労働対策として、しまし、館山地域内の一般労働者に対します。福利厚生施設の助成として十二万円計上したわけでござります。



昨年と比較したところ、一十萬圓の増額でございますが、これは本年度安房地区におきまして、労働者、福祉協議会が設立されました。従前の租職労働者のみに限らず、未組織一般労働者をとりまわして住宅あるいは生活資金の面で積極的に全域的活動に入るといふ形から十萬圓の増額を計上しております。館山地区取業指導協議会補助金前年度と同額でございますが、これは取安関係で中学校卒の就取指導関係の団体でございます。市町村の負担金で運営されておる協議会でございますが、この負担金四萬圓から労働金にいたします。融資の内増をはかるための預託金でございますが、これが不足はあつかひでございますが、五十萬圓増額した次第でございます。

次にセハベジ商工業の二日商工業振興費について、本年度の予算額が二千二百九十二萬二千円、前年度に比べまして五百五十一萬二千円の増加となるわけでございますが、これは中小企業への振興助成対策といたしまして、預託融資におきまして、五百萬圓、商工会議所助成金三十萬圓から今

まで補正をお願いしております。たばこ小売組合に對します。助成を本年  
 年当初で計上いたします。それが十五万、本年度新しい試みといたしまして、館  
 山の優秀な物産をPRする。計画で二、三パニフレットを二応助成的に十萬  
 圓計上したわけでござります。それから本年度新しいものといたしまして  
 安房支庁におきまして音頭を取りまして、房総半島南部の市町村  
 町におきまして商工振興協議会という会を結成する予定にしております。  
 ます。この負担金四萬圓、これが大体おまな増額の理由でござります。  
 観光費でござります。が千五百五萬六千圓の予算額前年度とを比較が約六  
 百萬近い増額になります。これは新しいものといたしまして、本年度館山観  
 光のPRを積極的に行なうという意味から新しい民謡を作りたいたいとい  
 うことで、その作成費に二百萬圓、それから北条海岸にやしの植栽を実施する作  
 したいということ、これが三百十六萬圓、それから観光協会の強化を目途といた  
 しまして、これを助成いたします。その増加分三十一萬圓、夏季対策キャビン等  
 で四十萬圓、約六百萬圓の増減とになります。

北条海岸の植栽につきましては長い間いろいろと検討して参りましたにまた  
南国ハーブの演出というところで適当な事業をソコソコ計画して参つたことがあり  
ますがようやく本年度具体化する運びになるわけでござりまするが一応や  
しの成木を計画してあるわけでござりまする。これを人物を五十本このやし代と  
して二百五十万それから肥料代あるいはこれを植栽いたしますとあとう管理  
が非常に大へんになるわけでこの管理人を雇い上げる計画もござりまするし  
さらに植栽の際に専門の私人を雇い上げるといふようなことで地えん夫と  
合めまして賃金とて約三十四万円それからブルトーザー等の借り入れも含め  
ましてこの植栽が三百十六万七千円さらに基盤整備とて花畑と石道に造  
成してもらいたいという要望を昨年より実施して参つてあるわけでござります  
が特に西岬から神戸のレストハウスに出ます三地区を予定しております  
三十万、城山の植栽をさらに継続するといふことでこの経費が賃金と植物  
代を含めまして五十九万円という形で基盤整備をいたしまして約四百  
万余円を計上しております。

それから宣伝と案内業務関係におきまして、ポスターの印刷、パンフレットが最近観光地でもうえるという印象が強まっておりますことと各観光地のパンフレットの競争にまゝ参りまして、ちらりなものでは宣伝効果がなないということが出ております。

非常に経費もかゝるわけでござりまするが、新年度の計画といたしましては、パンフレット二万七千五百部、五十五万円、ポスター二十四万四千、それから夏までの内房関係で共同で印刷してあります。この関係で五万円、さらにポスターを本年はじめて東京線、中央線、山手線、中づりを実施したわけでござりまするが、これを引き続き実施したいということ、二十四万、新聞雑誌等の広告に十万円計上しております。

さらに、海外観光物産展に参加する経費として五万五千円、観光案内所の運営として、今年新たに電話を一本増設する計画で、これの債券の経費として十万円新たに計上してござりまする。これを合算しまして観光案内所の年間運営費が約四十四万円前後となります。

その他行事といたしましては、つり大会、観光祭、鏡ヶ浦横断、遠泳大会これらの経費で六十八万円が計上されております。それから夏も冬も大きな行事としてしまして海水浴場の管理があるわけでもござります。が監視及び監視船、休憩所関係の臨時雇い上げの賃金といたしましてこの関係で約二百七十万円、それからこういう関係にはござる謝礼とか旅費等で七十六万五千円、それから夏と冬とをしましては、トウモロコシの電池とか救急薬品、

清掃用具、海岸の標識、ゴミ容器、こういった消耗品関係で二十八万円、それから施設の修繕料、約二十八万、海水浴場開きの関係費で約四万円、さらに仮設休憩所の工事関係で約三十五万円計上されて、海水浴場の管理といたしまして約四百七十六万円を予定しております。それからキャンプ場管理の経費が賃金、需用費、工事請負費、それからを合算しまして約五十八万七千円計上されております。その他一般管理費が報償費、旅費、需用費、役務費等で二十八万五千円となっております。それから各節別に集計いたしましたのがこの明細書の内容でございます。

以上でござります。

議長(田中祿郎君)

暫時休憩いたします。

午前十一時二十九分

休憩

午前十二時四十分

再開

議長(田中祿郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

(秘書課長登壇)

秘書課長(小倉澄男君)

御説明申し上げます。三三ページ総務費(般管理費でござります)。

八節報償費の中で表彰の銀盃を本年一百五十人分予定いたしました三十万八千円計上いたしました。旅費は大体昨年に準拠しております。上程し

に次第でござります。十四節の交際費も昨年度の額を願ひに次第でござります。

次に需用費でござります。この中で特に申し上げることは印刷製本費の百五十九万、三百冊（部）五千三百冊という予定でお願いした次第でござります。十九節負担金でござります。このうち県下市長会の十一万四千円、これは本年度が千葉県が関東市長会の受り持ちの年度にござります。銚子におよび六月開催予定にござります。総額二百万円をござります。がそのうちの八十万を銚子市が負担しております。残りの百六十二万を県下二十市で分担いたします。結果七十七万円を合算して十二万四千円と時に増額計上いたします。

それから防衛施設用地全国協議会負担金。これは昨年防衛施設周辺の整備等に関する法律というものが公布されました。それによりまして全国市長会内に新たに設けられました。協議会でござります。がこれにより防衛施設周辺のいろいろな民生の安定とかそういうものに対する促進をしようということ。これは全国に防衛対策協議会というものがあつたのでござります。がこれが元

展的に改組されまして、これは市ばかりではなく町村に合流して置かれた新しい協議会、第二回として市は三万円というふうなことで、ここにお願いたした。それからもう一つ新しくなりましたのが、鉄道債の利子補給金でございます。これは昨年まで当初に計上されたものでございまして、が本年から特に当初に計上願ったという県の要請もありまして、四十二年度におきます千葉館山間の電化の二億二百八十万円、これに対する利子の補給額が千七百三十二万二千八百二十八円、多少ずれはございしますが、大体この額の館山市負担分が七割、百二十四万四千を計上した次第でございます。残ります大書広報費を御説明申し上げます。印刷製本費、広報の印刷費が百万弱、ここに入っております。次に備品購入費におきます、三万円、これは広報の備品として、三角レニズを購入したいということ、ここにお願した次第でございます。それから十三節の委託料、市建務員の事務委託料、百四十五人分、これは前年度と同額でお願いしてございします。

三九ページ諸君、八節報償費、姉妹市派遣報償費、百万円を計上いたします。



したが二小はかねがね市長が姉妹市に館山市民を派遣してまいりうろたな  
交流をしたいということにききまゝ三人本年度におきまゝでまだ派遣  
遣いやりたいということでは百万円を計上した次第でございます。  
以上でございます。

(企画課長登壇)

・企画課長(谷見茂生君)

三十七頁六目の企画書につきまして、請御説明申し上げます。

十節の費用表の中、印刷製本費九万円、二小は振興費、計画が大体審議会  
の審議を終えまゝ、新年度印刷にかかるということ、約三百部の費用九万  
円を計上したわけでございます。

十九節の負担金でございますが、人権擁護委員の協議会人口割になつており  
まゝ、一人一円ということで五万六千円でございませう。

東京商船会館開発協議会の負担金五万円でございますが、二小は収益をこ  
うする市町村特に昨年から加入しておりまゝ、のでお付き金、いふ五万円

でござりますか。

二土節貸し付け金本年度も市から九百万円の貸し付けを頂戴いただきまして開発公社と一土地の購入ということになっております。昨年は補正予算で訂正いたしました。が新年度は当初予算からお願いしたいということで企画費が今年多くなつた理由でござります。

(調査課長登壇)

調査課長(高木哲三君)

四。ページ調査課関係につき御説明申し上げます。

後務総務費の中の調査課だけの予算とっております。と報酬だけござります。その他調査関係としましては昨年と大差ござらぬので説明欄により御了承願いたいと思ひます。

議長(田中祿郎君)

午前の会議はこれにて休憩といたします。

午前十一時五十分

休憩

午後一時十分

再開

議長(田中祿郎君)

午後、出席議員數十名休憩前に引き続き会議を開きます。

(収納課長秋田)

収納課長(多田俊一君)

四〇ページ徴税費のうち収納課関係の四十二年度予算総額につきましては五百三十五万二千円前年に比較して一千万四千円増となっております。また、これは主として納税組合によりる税額の伸び組合の増加に伴うものでございます。

八節の報償費、納税組合奨励金として三百七十五万四千円は四十二年度の見込み税額といたしまして八千八百二十五万四千円に對する四分の一の完納奨励金として三百五十三万四千円から取り扱い納付枚数六万四千枚を見込みとして

枚三円十九万二千円がおよむものでござります。二目賦課徴収費のうち八  
 割の報償費につきましては三十五万円計上してござります。これは納期前納付  
 の税額を三百五十万を見込みまして三十五万円、その他節につきましては  
 前年同様でござりますので説明により承知願いたいと思ひます。

五四ページ国民年金事務へ節報償費四十六万八千円、納入組合報償費  
 完納特励金と一十四万一千円計上しております。これは国民年金租  
 金によりまして納入金額を千四百七十万と見て二分の三分の報償金といた  
 しまして四十四万一千円、その他は前年と同じでござります。

以上でござります。

(市民課長登壇)

市民課長(羽山房雄君)

四〇ページ市民課関係の徴収費につきましては、備品購入十二万三千円、これは  
 納付済通知書を格納しております。キャビネット等は、これは固定資産カード  
 ども収容いたします。トリーの購入費を計上したわけでござります。

四三ページの備品購入費におきまして十二万七千円お願ひであるわけでござい  
ますが、これはビジブルとエスターの工場におきまして一カクラインダー等必要を  
生じましたのでお願ひしたいということでございまして、その他につきましては節に  
より御了承いただきたいと思います。

(選管書記長登壇)

選管書記長(大嶋重義君)

四三ページの選挙費について御説明申し上げます。選挙におきまして百七十七  
万一千円増でございまして、これは県知事と県会議員の選挙、市会議員の選  
挙費が新たに加わりまして、このものがふえたおもしろ理由でございまして。

一目の選挙管理委員会費について、大伴、これは経常的経費でございまして、  
説明欄にも、御了承いただきたいと思います。

二目の選挙啓発費でございまして、五十九万五千円、前年度に比べて  
二十八万四千円増でございまして、このおもしろいは、常時啓発事業のほか、  
自治省から重点啓発地区の指定を受けまして、引き続きこの事業を

行なう見込みでござります。この経費がふえたにおもは理由でござります。五十九万五千内の内訳は常時啓発によります。一十七万八千円、重点啓発によります。一十七万七千円でござります。

次に三日知事選挙と市会議員選挙費でござります。が百九万五千円計上しております。四十一年度の最終予算におよまして準備事務を主体とした経費として五十三万計上したわけでござります。この選挙の総体の経費として百六十二万五千円でこの外関係の選挙を行なうわけでござります。この選挙執行の経費をこの報酬から以下十九節の負担金に各必要なる費用に含めたでござります。このうち取員手当てでござります。がこの内訳は開票準備投票となっております。が土曜日でござります。この投票事務関係は九時間半の超勤を見込んでおります。開票関係は四時間半でござります。旅費九万八千円おもちものは行政区の取員に入場券とか公報とかはともちり市内出張旅費が八万近くをもちております。需用費におよまして食料費で八万六千円、これは投票関係では管理者

立今人従事者の食料費、開票の夜食、その他委員会のまかなひ費、等  
でござります。冒市議会議員選挙費でござりますが九十三万八千四の  
計上でござります。準備に二十九万八千四、投票に四万、開票に二十四万二  
れをそれだけ一つの報酬から十八の備品購入費まで各節に令けり計上した  
ものでござります。このうち超勤等にござります。も県関係の場合とほぼ  
同じでござります。印刷製本費で六万七千四、かかりあります。が今度の場合  
合は市自体の選挙でござりますので投票用紙等を三万以上作るという  
ことで計上しております。その他にござります。は選挙執行に必要経費を  
見積つた次第でござります。以上でござります。

(庶務課長登壇)

・庶務課長(山口史君)

四ページ五項統計調査費につて説明申し上げます。

本年は三百十九万八千四、昨年と比較して三十二万の減となっております。  
つまり、このほかものは総務費により十八万六千四、商業統計調査十八

八千内事業所統計調査費の十三万八千内、これらの調査が本年度は該  
当年度でないが、これらが前年に比較して減額されるわけでございます。  
各目の内容でございますが、前年と大差がございまして、各節の説明によつて  
御了承いただけます。

(監査事務局局長登壇)

・監査事務局局長(館石勘治君)

五、ベジ監査委員費に、御説明申し上げます。

本年二百十九万六千円でございまして、十四万円増額でございます。十四万円は  
人件費の増額で、その他は前年とほぼ同額でございます。その中で説明により  
御了承願います。

(福祉事務所長登壇)

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君)

五、ベジ第三款民生費のうち福祉事務所関係の予算につきまして御説  
明申し上げます。



第二項社会福祉総務費におきまゝ千九百二十五万八千円を計上したのでした。中には身体障害者福祉精神薄弱者福祉老人福祉母子福祉援護関係費等が計上されておるわけでございます。

十一節の消耗品食料費については敬老会慰霊霊祭等の費用がおもなものでございます。十二節役務費におきまゝ二十九万三千円このうちの老人健康診査手数料三十一万五千円一般健康診査と一十二千七百人のうち約三割の受診者を見まゝ一八百十人の一人当たり二百五十円精密検査でそれのさらに二割見まゝ一六千六百二十人で一人千円、こういう積算で計上しております。十三節委託料で六十四万四千円このうち民生委員業務委託料と一五十一万四千円の内訳は千二百六十人分三十一万六千円、残りの三万四千円が運営費として社会福祉協議会に委託するものでございます。

十九節の負担金補助及び交付金におきまゝ百七十一万一千円を計上いたしました。このうちおもなものを申し上げますと千葉更生保護助成協会負担金と一十六万八千円、これは一人当たり二円といふことで計上いたしました。

安房保護司会助成金として五万六千円、これは一人当たり一円といふことで  
 計上いたしました。それから養老年金二十八万八千円は該当者二百四十人分と  
 して年額千一百円として計上しております。老人クラブ補助金八十二万八千円、これは  
 四十五クラブ分として計上したものでございまして、昨年より現在では三十七クラブ  
 でございまして、本年に限りまして各関係者の御努力によりまして、幾分このク  
 ラブが結成されました。現在でも二十四クラブを突破して、この状況でございまして、

それから私立児童遊園地設置助成として十萬八千円、これは三ヶ所予定して計  
 上いたしました。二十節扶助費におきまして、五百九十八万二千円を計上いたし  
 ました。身体障害者、補装具交付補助費として十五万五千円、これは十  
 五件分、施設収容扶助費一人分十萬九千円、老人保護措置として五百六十  
 四万五千円、これは福祉老人ホームに収容してあります市内の老人の保護費で  
 ございまして、三十五人分を定めております。精神薄弱者取親委託費七十  
 万三千円、これは取親二人を予定して、一日百円を委託費として助成するもの  
 でございまして、社会福祉施設費五十万一千円、六万四千円、減額でございまして、



金で百十五万を計上したのであります。このうちスポーツクラブ用入補助金として三十万円、これはすべてに結成されております船形、早起、野球、神戸の剣道クラブ、この三クラブに対して助成しようというものでござります。

青年相少年相談員連絡協議会補助金六十万円、これは前年度と同額でござります。果敢り三十万円、市から三十万円を助成しようとするものでござります。スポーツ少年団用是補助金として五十万円、これは青少年問題協議会におきまして青少年の健全育成を奨励するにやうにその重点目標としてスポーツ少年団の育成をかねておきわけでござります。が本年度新たに五スポーツ少年団を予定しております。一少年団二万円計上したのであります。スポーツ少年団の育成費補助二十万円、これはすべてにできており、スポーツ少年団及びこれからござります。スポーツ少年団に於いて一万円程度の助成をしようというものでござります。それから、それから二日の児童措置費におきまして、千四百四十三万八千円を計上したのであります。昨年に比べまして二百九十九万八千円の増額でござります。

これは市内にござります。私達の保育園に於いて、児童措置費でござい

ます。三百三十人分を計上いたしました。二日の児童福祉施設費におきまして四百八十九万九千円、昨年に比べまして四十八万三千円が増えています。これは公設の保育園の人件費及び運営費でございます。工事諸費費で四十三万円、保育室を増築築造しようというものと純真保育園に垣根を設置しようというものがおもな経費でございます。十八師備品購入費、四十九万六千円、これは四園にわたります。遊具購入費でございます。三項一月生活保護総務費に五百二十万九千円、前年度に比べまして四十八万九千円の増額でございます。これは大体が人件費の増に相当するものでございます。その他費金は前年と大差ございません。二日の扶助費におきまして九千四百四十二万六千四百八十五万五千円の増でございます。これは生活扶助費その他の扶助費の基準単価の増でございます。昨年に比べまして約三%のアップを見込んでおります。

生活扶助費におきまして五百八十五人、住宅扶助費に二百三十五人、教育扶助費に百七十一人、医療扶助費に三百六十八人、出産扶助費に五件、生業扶助費三十六件、葬祭扶助費十二件、施設事務費四人分等を見込んでおります。

のでござります。四項の災害扶助費でござりますがこれは存目を計上したわけでございます。以上でございます。

(衛生施設課長登壇)

衛生施設課長(吉田耕一君)

衛生費関係について御説明申し上げます。

六ページ目の総務費でござりますが火葬場の運営に必要な経費を計上してあるわけでござります。一時に新しいものはございまして説明欄により御了承したにしたいと思っております。六三ページ二項の清掃費におきまして八百九十九万四千五百圓というものでござります。これにつきましてもじんかいし灰等としての清掃関係に對します。人件費その他必要経費を昨年と大差なく計上したわけでござります。で説明欄により御了承したにきます。六四ページ目のじんかい処理費でござりますが焼却場の完成に伴いましていろいろの細かい経費の支出がなくなるわけでござります。で完全処理に至りまうたにふにふえます。たもつば光熱水費等がなお増の原因でござります。

特に十四節の使用料賃借料でござりまするが三丁五十一万円とお願ひし  
うというもござりまするがゴミの車賃借り上げ料四十九万六千円にござりま  
すが現在の台数では夏季も多く出ます時期に完全処理ができないう  
ような観点から一時的な借り上げをいたします一処理をうけいきたい。  
このように考えよう願ひした次第でござりまする。

次の工事請負費でござりまするが道路側溝あるいは中央水路あるいは船  
形地区の柳塚西と東に通ります汚水路があるわけにござりまするがそ  
うした面に必要な工費といたします一百万円とお願ひする次第でござりまする。  
その他にすきカーは昨年と大差ござりまするで御了承にしたいと  
存じまする。

次に三日のし尿処理費でござりまする。今回七百七十五万円お願ひしようとい  
うもござりまする。特に十五節の工事請負費で三百五十万円を計上し  
てもござりまする。これは先般の債務負担行為で御決議をいたしま  
したガス攪拌工事二百五十万円ポンプ配管ボイラーの軟水装置合

おせまして百万円をお願いするわけでございます。十六節の原材料でございますが十七万五千円、サプロ床の石材の準備を購へたい。その他につきましては運営上必要な経費を計上してござりますので説明欄で御了承いただきたいと思います。

次に三項の上水道費でございますが負担金補助及び交付金によきまして三千万円をお願いしようというものでござります。これは四十年度から四十二年という三年計画をもちまして三市町村の組合立水道の完成に伴う市町村負担、七二一の割合により三千万円をお願いするわけでございます。現在の総工事費約五億二千万でございますが四十一年度で二億四千万余の事業を実施してあるわけでございますが四十二年度におきまして残額の二億三千万余の工事にかかります。本市の負担額三千万円をお願いするわけでございます。

次の二十八節の繰り出し金でございますがこれは一月の議会によきまして南部簡易水道の実施議決をお願いしたわけでございますが神余に貯



水池を作りまして富崎までの関係区域におきますところの簡易水道  
事業を計画してあるわけでございますが総工事費約一億六千万余で  
ございまして、これを特別会計で御説明申し上げますが継続事業と  
いたしまして四十二年、三年という計画をしてあるわけでございます。四十二年  
度一億八百万余に對してあります市とやり繰り出し金三千六百万三千円  
をお願いするともうございまして、以上でございまして。

議長(田中祿郎君)

暫時休憩いたします。

午後一時五十二分

休憩

午後二時三十八分

再開

議長(田中祿郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

(保健衛生課長登壇)

保健衛生課長(池田亮山君)

六ページ衛生費のうち所管費目にして説明申し上げます。

六ページ十九節負担金補助及び交付金二百五万一千円前年度と比較いたしまして五万三千円の増でございます。これは本年の秋に当市において開催されました千葉県精神衛生母子大会がござりますのでそれの地元負担金として五万円支出することになりました。これはおまけ増の原因でございます。その他の費目につきましては説明を省略させていただきます。次に六ページ二十節扶助費でございますがこれは保護家庭の妊産婦それから幼児見に対する乳製品を支給してござります。二目予防費六百二十五万二千円の前年度と比較いたしまして三万四千五百円の内増でございます。このおまけもつと申し上げますと需用費におきまして四十六万九千円の内増となっておりますがこれは本年度新しく取り上げました破傷風に對する予防接種の経費がおまけものでござります。

次に十三節委託料十六万八千円の増でございます。これは従来から医師会にお願ひしてござりまする予防接種の医師の委託料並びに結核住民検診の見重の精核、カン対策の予防検診でございます。この中で従来からお願ひしてあります医師の雇い上げの検診委託料を若干値上げいたしました。従来一千五百円だったのを本年度から千七百円にいたしました。ということでは若干の増加をきたしております。十八節備品費三十三万円の減となっておりますがこれは神正手算で御説明申し上げました注射器を本年度購入さしひかえまして、たゞそれが減となったものでござりまする。

次に三目の環境衛生費でございます。三百十五万二千円で二十万ほど増となっておりますがこれは、賃金の値上げが影響をしておるものでござりまする。十八節の備品購入費で十二万五千円、これは防除器具スプレー、スプレーと書いておりますがこれはハエ、カの駆除に用います機械でございます。現在当市では二台使用しておりますがなお二台購入したところ、これの駆除に全力を尽したい。かように思っております。以上でございます。

(農業委員会事務局長登壇)

農業委員会事務局長(山口太一君)

六八ページ第大款農林水産費―目農業委員会費に引いて説明申し上げま  
す。

前年度に比較して二十六万二千円の減でございまして、けれどもこれは主  
として人件費でございまして、その他は經常費につきましては前年と大差ござ  
いまして、説明欄によろしく御審議願います。以上でございまして。

(農林水産課長登壇)

農林水産課長(伊藤幸太郎君)

農林水産業費のうち、七ページの農業振興費から御説明申し上げます。

農業振興費といたしまして、本年度四百七十七万三千円の予算でございま  
すが、大体付記にございまして、通り負担金あるいは補助金等が主でございま  
す。これはすべて前年度通りのものでございまして、御了承願いた  
いと思います。ただおなじものを申し上げますと、農業構造改善事業

の補助金として二百万円、これは四十一年度によりまして、構造改修事業も一応完了したわけでございますけれども、コンバインの購入が一年繰り下げられ、まして四十一年度によりまして完了しておりますので、それが四百万円、半分の二百万の補助金でございます。次の業たは、この補助金でございますが、これは専売局から奨励しておりますマルキングの栽培を奨励する意味にあります。本市によりまして、二十ヘクタールの栽培、補助金を交付したいということ、十二万円計上しております。

次の農業近代化資金、利子補給金七十一万六千円でございしますが、これは予定どおり、一億二千万の借り入れに、この利子補給額を計算いたします。七十一万六千円の補助ということでございます。

次の土地改良事業の利子補給金、これも三十一万七千円でございします。これは構造改修事業の土地基盤整備事業に、利子補給金でございます。現在構造改修事業の基盤整備事業として、公庫から借り入れております額が千八百万でございしますが、これに、市独自の

補給金として二分程度の利子を補給したいということでは計上してござい  
ます。

次う病氣害虫に対する補助金五十万でござりますけれどもこれも水稻あろ  
いはなすくろがぬもちあるいはじやがいも等に対する病虫害補助金を五  
十万程度支出したいというものでござります。セページ四目畜産業費で  
ござりますが本年度二百八十二万三千円を計上しておりますが、おもしろ  
いところでは委託料に百五十四万二千円計上しております。これは  
小規模草地の改良事業委託料でござります。本年度は九重地区四  
ヘクタール豊後地区に四ヘクタールを計画しております。それから委託費  
として百十七万二千円を計上しております。あとの貸金、旅費、需用費等は小  
規模草地の改良事業にいたします。經常額でござります。御了承願  
いたします。セページ牧野の調査委託料でござります。が構造改善  
事業の二次分として畜産関係を取り上げたいという計画を持っております  
が本年度は調査期間として調査料を租人にわけでござります。

乳牛の共進会の委託料二十五万ニハは三十七年度に実施したるものなり。その  
後一回も開けておりません。四十二年度におきましてはぜひ共進会を実施  
してほしいという強い要望もござりますので本年の秋頃共進会を開催いたし  
たいという事で二十五万を計上したものでござります。

次に農地費でございますが本年度五百十二万八千内を計上した。た  
おもなものとしましては委託料二十三万四千ニハは九重の大井と安東  
地区二カ所にござります。土地基盤整備の調査を実施した。四十二年  
度で実施した。まする。用市内の全域につけての基盤整備調査が完了  
した。まする。原材料費ニハは農道の改修用排水路等の補修に伴い  
まする。原材料費として一百万円計上したものでござります。

次に十九節負担金三百七十三万四千内を計上してあります。このうち安房  
中央土地改良区の補助金が百七十一万内、共同施行分として二百万円、ニハは  
現在予定してありますのが西郷の農道改良事業、その他十七カ所程  
度の改良事業を実施したいという事で、合計額を二百万とよ

えて計上いたしております。

次に林業費二百七十三万五千円を計上しており、このうちおもなものといたしましては委託料百二十六万円計上しており、これは松喰い虫の被害木駆除委託料でございます。本年度は千四百リットルの伐採を計上いたしております。

次に三項の水産業費でございます。本年度千四百二十万円計上しております。がこのうちおもなものといたしましては、若岸漁業の構造改善、事業補助金百七十六万九千円、これは船形の魚床設置、富崎、三組合共同の投石事業、この所を予定しております。

次に館山、船形上、架装装置、施設補助金百二十二万、これは館山漁協に対し、また、架装、船形漁協に対しまして、八基の上架装装置を設置したいというところで、それらの事業費に対しまして、補助金としまして百二十二万円を計上いたします。

次に三日の漁港管理費でございます。三十二万円でございますが、特に申し上げ



る点は、ご指摘を。

次に四目の漁港建設費八百二十五万七千円でご指摘ですが、おもなものといたしましては、まず十五節の工事請負費におきまして三百六十七万五千円を計上しており、これは付記にご指摘通り、工事と合計して、まず、補助率の計算のもとで計上したものでござります。

次に十九節の負担金補助及び交付金で四百五十六万三千円を計上してござります。この船形の漁港負担金が百九十六万三千円、これは船形の第三次漁港整備計画に基きます。四十二年度分の事業でござります。

防波堤の延長工事約三メートルの、実施額が千五百万円ということでおさえにわけてござります。

次の富崎漁港の整備負担金百万円、これは単工事でご指摘する布良と相次漁港の物揚げ場の上張り工事二百万円、これに対する負担金として百万円を計上したものでござります。以上でござります。

(土木課長答へ)

土木課長(新井重助君)

八款土木費について御説明申し上げます。

土木総務費におきまして千六百四十七千内、計上でござりますが、このうち特に申し上げたいと思っておりますのは、一節需用費、印刷製本費におきまして二十一万六千内、これは館山市全域の図面を三万五千分の二で二百枚作るということに計上したわけでございます。その他につきましては前年度と大差ございませんで付記により御了承願います。

次に養護二項の道路橋梁費のうち、橋梁総務費でござりますが、これは前年同様でございまして、説明により御了承願います。二目道路維持費、千九百六十八千内、今回特にかわたとを申し上げますと、十五節の工事請負費におきまして、三十五万円の増、および十六節の原材料費、九百万円、でございしますが、これは前年に比べまして、五十四万円の増額でございします。これは若干の値上りを見込みまして、こういう数字を上げた次第でございします。以上合計いたしますと、市道四〇〇キロの補修費に充てる予定でござ

ごまてーニの予算を計上した次第でございます。二番道路新設改良事  
におきまして二千三百十三万四千円の計上でございます。これは工事個所を申  
し上げたいと思っております。神明町停車場線、市役所の脇から参ります  
道路改良、大井直野線へ取は三十七年頃工事を着工いたしました。がその後  
中止となりおります。がこれを今回引き續けやりたい。一八メートルでござい  
ます。山萩から古茂口に通ずる道路二五。メートル大戸畑線三〇。メートル前年  
度継続でございす。東長田旧役場の脇から入ります。道路、これも前  
年度から引き續け二〇。メートルの改良、見物小沼線、これも前年度に引  
き續け一六。メートル幅員を六メートルにする。館野小学校の前、四上年  
度改良をほどして、したが若干残りおります。がこれを一〇。メートル幅員  
六メートルに改良したい。大石、神余、本年度着工いたします。なお旧神戸  
よりの方が狭い。が幅員五メートルに改良したいと思っております。安東  
宝貝、これは消防署の入りない道路がございす。がこれを二〇。メートル改良  
以上九線延長一九。メートルの改良でございす。

次に舗装でござります。富崎測候所へは舗装でメートル青柳真倉  
青柳の十字路から入りまして道路でござります。が三三メートル直営で施  
行してまいりたい。

次は上町、下町でござります。こゝを二メートル直営で施行したい。新塩場  
長須賀線、こゝは門田齒匠者の前から踏切に至る間二五メートルの舗装  
洲崎におきまして洲崎のフラワーラインの入口から洲崎灯台に至る道  
路一六メートル直営で施行してまいりたい。湊高井線本年度二メートル以  
上舗装大々所二四メートルの工事を施行してまいりたい。こゝに要する費用  
が直営を合算しまして千九百六十千三百十三万  
四千円におおむんす。次等でござります。

次に四目井用水、栗木路費でござります。こゝは前年度まで総務費の中に  
つたふありまして本年一度からミニにうつたふものでござります。こゝは  
沼の用水路と那古の用水路を予定してよりまして、五目橋梁維持費百五  
十八万内上夏倉の車橋ほか四橋を見込んでおりまして修繕するわけでござります。

次の橋梁新設改良費百七十万円、これは広瀬の小橋、作名の堂ノ下橋、二小  
を永久橋にかけかえたいというところでお願します。次第でござります。三、河川費  
九十万円計上してござります。が、どん川、護岸工事、坂田川、護岸合わせ  
まして、四、メートルの延長を改良して、こうというわけでもござります。

次の港湾費におきまして、二百三十九万四千円、このうち十五節の工事請負費で  
二百万円、これは館山、北奈、那古、棧橋の修繕費でござります。十九節の費  
税金、これは本年度計上してござります。館山港の港湾修築費が本  
年は第二次計画が終りましたので、次の計画まで予算の配当がないものと思  
います。ここに計上しなから、わけでもござります。

次の都市計画費でござります。総務費におきまして、二百十九万円でござい  
ます。この中で十三節委託料、本年度より都市計画の基本調査を行な  
います。関係上、図面の調整が必要となり、参入したものでござります。この費用が  
今、この確定の費用がわかりましたので、二百三十九万四千円というところでお願します。  
次第でござります。その他につきましては、前年度と大差ござります。この中で、

明により御了承願いたいと思っております。

次の街路事業費千四百八十三万内、本も工事箇所を申し上げます。船形港丸山線、前年度に引き続い一五メートル、本は全線幅員七メートルにでき上ることになります。船形、館山港線、本は海岸道路でござい、ます。が風が吹きますと側溝の中に砂が入り、汚水で一はソになるという状況でござい、ます。で側溝にふたをして、側溝の改良事業でござい、ます。それから、那古線、本は市役所の前から昭和橋を通る道路でござい、ます。が、本を本年に引き続い、一三六メートルの舗装工事でござい、ます。次に市役所の裏から大千葉の前を通り、ます。道路、本を舗装を前年度に引き続い、二・三メートル舗装して、ます。以上四線の工事費でござい、ます。本が千四百八十三万内、各所に計上して、ます。その他時に申し上げたい、は十八の備品購入費でござい、ます。グレーダーと申し、ます。路面をかき、ます。機械で、ます。工事、に使うと同時に各部落に、ます。して路面の維持補修に充てたい。

これは、小型でございまして、細い道にも入りますので、これを都市計画の方から購入することになりました。

三目、都市下水路本年百三十万円でございまして、

これは三軒町、排水路、継続事業でございまして、那  
右、排水路、これは本年に引き続きまして、二カ所で百  
三十万円の工事費でございまして、

次に四目、公園費でございまして、六百十一万八千円の状況  
でございまして、このうち、城山公園におきまして、前  
年度までに一応、千畳敷の方は形はつきまじつて、  
新年から旧幼稚園跡の計画をいじりわけでございまして、  
整地と休憩所を作りたい。その他、神島に從來  
ありまして休憩所がこわれておりますので、これを復  
旧を見込んでおります。それから、北条海岸、グリーン  
ベルト付近の敷地の造成、整地、こういうものを

見込んでございます。こゝが十五節、工事請負費、三百四十万円となっております。その他賃金としてあそびに常時三人一人がおりますので、その賃金でございします。

次に十九節の負担金でございします。二百五十万円、こゝは例年より西岬の国定公園の負担金と北条海岸のグリーンベルト造成のため負担金と見込みまして二百五十万円以上簡単でございしますが、土木費の説明を終わります。

(建築課長登壇)

建築課長(池田春雄君)九一ページ住宅建築費について申上げます。

二千五十一万九千円、こゝは二種簡耐プレハブ十戸分でございます。前年は二十戸分でございます。



減額がございます。

十五節 工事請負費、これは付帯工事を含め十六戸分でございます。

十七節 公有財産購入費、これは国有地を払ひ下げてもらう一八五〇平方メートル購入費です。

次の十八節の十七万円は備品としてロッカーとバイクを買いたいと思っております。

その他項目は説明により御了承願ひたいと思ひます。

(消防本部長 登壇)

消防本部長(石渡東君) 九款消防費を御説明いたします。総体におきまして五百七十余万にござりますが、そのおもなものは第一目の常備消防費におきまして四百七十余万、これは主として人件費の

増によるものでございます。新たに迎えようとする専任消防長の給料と一般取給。その他各項目に盛り込まれております。

九三ページ需用費。約十万円増になっておりますが、これはガソリン、化学消防薬を買うのがおもしろいものでございます。

十二節の役務費につきましては約六万増。これは電話の自動化に伴いまして電話料が一年間、一月が把握できません。従いまして、約一カ月間記録を取って見まして、大体はどいて三十万六千円を見積っております。

十八節備品費。三十万増になっておりますが、修理工場の工具の購入、煙の中でも入っていかれる人命救助の装具を買いたい。それから、油火災等におきます。

火煙の間並まで寄せる耐熱服がございますので、これを  
二三着購入したいということとで三十万。昨年より増にな  
っております。

次に非常備消防に入りまして、百八十三万の増。これは  
主として四十二年度に消防団員に支給します。被服  
関係のものでもございます。

旅費におきまして、二十万増になっておりますが、夏消  
防団員に猛訓練をさせる計画もできておりまして  
ニムラに対する費用弁償等を考慮して二十万増にな  
っております。

十一節 需用費、昨年より四十万ほど多くなっております  
が、分団の館山地区でございすが、ポンプ車一台改造  
したい。ニムラに充てる経費として約二十万程度。それ  
他は各消耗品、燃料等、値上りを含めまして、約四

十萬の増になっております。

十八節、備品購入費におきまして、被服関係が支給時期になっておりますので、昨年より二、三節で百万円増になっております。

負担金に参りまして、昨年よりも共済基金の掛金が四万円プラス、消防協会、館山支部補助金、約五万円プラス。

施設費におきまして、昨年より約百万円の減でございます。これは貯水池の数が昨年より若干減っておりますが、大体貯水池も、毎年整備されておりますので、地区の要望に応じてここに盛ってございます。

備品購入におきまして、消防団関係の中型車一台、これは神戸地区でございます。

九霊地区でございますが、現在旧式の手引ガソリンボ

ニアがございますので、これを可搬マシンを積載した積載車を整備したい。それから常備消防に移動式無線器も二基整備したいという事で、予算的には二十万プラスになっております。

以上説明をばぶきまーに部分につきましては、昨年と同様でございまして、説明欄により御了承いただくと思います。

(教育委員会庶務課長 登壇)

教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君) 九六ページ十款教育費について御説明申し上げます。

第一項の教育総務費でございしますが、千二百六十六万七千円で二百六十五万五千円を減てございます。

教育委員会費で二十五万を増てございますが、今まで十九節の負担金二十五万円、この関係のもの

のが事務局費にあつたのでございしますが、これを  
ここに持つてきた次第でございします。

二目う事務局費でございしますが、二百八十五万五千円  
の減でございします。おもなものは人件費、社会教育  
課、取員、人件費が今までは事務局費に組  
んであつたのでございしますが、それを今度社会教育費  
う方に移したものでございします。その金額が二百九  
十一万四千円でございします。

それから十一節の需用費五十五万九千円、特に資料  
センター用、十一万六千円、食料費四千円が含まれて  
おります。

十三節の委託料、一三万五千円、説明のとおりでござ  
います。

十八節の備品購入費八十九万五千円、二のうち教材用文

通信号機二十万、これは交通教育のために教材用として三組購入いたしました。交通教育の資料にいたらないというものでございます。

それから資料センターの設備として五十七万三千円でございますが、今回教育予算の効率を高めるとともに市の事務改善と一環制をはかるという意味におきまして教材、教具を一つところに置きまして、そして各学校が使うということでこの設備費として五十七万三千円、その他に消耗品とか、或いは委託料、合わせてまして一十七万三千円、経費を計上いたしましてございます。

次に小学校費でございますが、三千四百六十二万六千円、前年度より四百四十二万五千円の増でございます。まず、七節の賃金、この中に事務補佐員を新たに

二名増員いたしまして、事務長やいろいろな学校に充當して、事務の促進をはかりたいということでございます。十四節、使用料及び賃借料、二十二万一千円のうち、自動車借り上げ料、十三万六千円、これは今回、盛夏、水泳、バス借り上げ料、夏になりますと、九重、館野等ではバスを借り上げて水泳を行なう。その関係のもので、六万円、それから救急の自動車、これは学校でけが人が出たいろいろな場合の自動車を頼む費用、これは一万三千円、文化祭等に各学校から全部集まつてきて音楽会等をやる、そういう関係のバス借り上げ料、六万三千円が含まれております。

二目、教育振興費、八百七十五万一千円、三百九十七万七千円、増でございますが、これはまず、需用費、百七十五万一千円、二の中に特に安全交通研究校といつた



まゝて、北条小学校に一万九千円を払いまゝて、研究用費費用といひます。

十三節委託料六万円。現場研究委託、内地留学と申しますか。約一週間位、まゝ学校にいきまゝて、その学校で授業を實際にやってくるという関係でもあります。

十八節備品購入費四百八十三万七千円。このうち教材費三百七十七万七千円でございますが、四十一年度が百七十一万九千円で二百四十八千円増でございます。この教材費関係は特に国が国庫補助を増額ということを打ち出されたものでございまして、この関係は二分の一補助がございします。

理科教育設備費として六十八万円。充足率が七〇%以下のもので、右いものから設備していくという、

こゝも国庫補助に伴いますもので、畑小・豊房小・館野小等が考えられております。

特殊学級設備費として三十八万円。こゝは新たに船形・北条・神戸・富崎・豊房、こゝだけが特殊学級が新設されます。関係の設備費でございます。

次に二十節の扶助費。こゝ中に通学用品の扶助費二十六万二千円とありますが、こゝは今回新設のこゝもでございます。今まで通学用のかさ・雨具・ぞうりなどは買えなかったでございすが、今度新たに準要保護関係のものにこゝが認められたわけでございます。

三目、学校建設費、十五節工事請負費、二十八万五千円でございますが、こゝは豊房小学校、湯わか場、館野小学校、体育倉庫、九重小学校、渡り

廊下等々工事関係でございます。

次に三項々中学校費でございます。四千六百十一万八千円で二千二百三十四万八千円増でございます。

まず十四節々使用料及び賃借料六十万七千円の中  
々自動車借り上げ料、これは小学校費で申し上げ  
ましたとあり、盛夏水泳場も、或いは救急用々自  
動車借り上げ料、そういうものが含まれております。  
それから十五節々工事請負費、四十五万円、これは  
一中々教室々窓々改造、四教室、それから四中々  
家庭科室々水道の設備、二中の特殊学級々改  
良工事、こういう関係のものでございます。

一八節々備品購入費、三百八十五万一千円でございま  
すが、このうち机・腰掛購入費、百二十万でございます。  
これは生徒の体位がよくなって、机・腰掛が体に合わな

くはつたものが見らるゝで、今回三年生が机・腰掛・  
ニハを三年計画で充足したいという事で、その第  
一回目として三百八十組を購入するものでございませ  
次に二目教育振興費、八百二十六万四千円で三百十七万  
七千円増でございませうが、備品購入費や教材費二  
百六十二万三千円、百四十二万三千円で百十九万六千円の  
増でございませう。ニハは小学校費で申し上げたやうな  
次第でございませう。

理科教育の設備費六十四万円、七〇％に満たない学校  
西岬、房南、神余を予定しております。産業教育の  
関係の設備費といひまして、七〇％に満たないもの  
西岬、神余、四中を予定しております。

二十節の扶助費の中、通学用品、三十五万八千円、  
ニハは、小学校費で説明したのと同様のものでございませう。

三目う学校建設費 十五節 工事請負費でございますが、二千二百二十八万円、これは、房南中学校の建設関係木造二階で一、三〇八平方メートル十教室と便所に分てございます。それと四中の用務員室、宿直室、便所等の九二平方メートルの工事費、一中の渡り廊下関係合わせまして二千二百二十八万円でございます。

次に四項の高等学校費、二十六節の、寄付金、千二百四十一万六千円でございますが、これは、館山高校と県立移管する際に条件といたしまして、体育館、建設の場合にはその三分の一の額を負担するということでございますが、館山高校の体育館の建設費といたしまして、三千七百二十四万九千二百七十一円の費用を要しております。その三分の一の額、千二百四十一万六千円を寄付金として県の方に出すものでございます。

次に五項の幼稚園費二千二百八十八万二千円、百三十万円の増でございますが、十三節の委託料二万円、これはカリキュラム編成の関係の委託料でございます。

十五節の工事請負費六十八万五千円、これは館山幼稚園、西岬幼稚園、神戸幼稚園、北条幼稚園、小ざくら工事関係の金額でございます。

以上社会教育費を除いた分を御説明申し上げました。

(社会教育課長 登壇)

社会教育課長(原間利一君)　一〇七ページ大項、社会教育費につきまして御説明申し上げます。

本年度一億二千八百八十五万六千円、前年度に比べまして三千三百十六万七千円の増でございますが、この主たるものは先ほど事務局費でも話してまいりました社会教育

課取員、給料関係及び先般の継続費の補正の中で  
市民センターの年度割、四十二年度分からきますものか  
その部分に当るわけでございます。

一、社会教育総務費 本年度七百八十七万八千円、前  
年度に比し、四百九十六万六千円、この主たるものは  
先ほど申し上げました給料関係に入ってきております  
八節の報償費で七十一万四千円、この中では成人教育  
関係に十萬、並びに一般住民を対象とした講演会等  
が入っております。さらに家庭教育学級を従来  
七学級と小中学校区従いまし、十三学級の開設を  
計画して十四万三千円、講師謝礼を計上して  
るわけでございます。なお、青少年健全育成に  
つきましても、従来よりもさらに増額をお願いま  
して中央で行ないますものは、従来通りでございますが、

地区分館を中心として、これまでの二十万三千円のうち十九万九千円をお願ひするものでございます。

旅費でございますが、青羊田関係の果並びに全国へ青年祭参加旅費におきまして六万円をお願いするものでございます。

十三節委託料、従来文化祭の委託料ということでは体育も含めて三十五万計上しておいたわけでございますが、四十二年度におきましては体育を除きまして二十九万円、なお文化財保護の立場から文化財の撮影につきまして委託料五千円をお願いする次第でございまして、十九節の負担金補助及び交付金でございまして、この中で特に七文見合同祝いでございまして、従来総務費の中で計上願ったものでございますが、各分館、そして地区の婦人会共催の形でここに一括負担金



として四万五千円計上願ったものでございます。

なお、先ほど福祉の方でも願ひをいたしたが、老人クラブの結成数が大幅にふえてきておるわけでございしますが、老人福祉と相まちなして、各分館主催になります。老人学校を予定しております。こゝろ補助金として三万円を願ひするものでございます。

二目、公民館費でございますが、百四万四千円、二十四万四千円を増でございますが、主たるものは需用費におきまして、二十九万七千円、工事請負費におきまして、九重分館、西岬分館、豊房分館の施設整備と、いうことから八万九千円を計上しております。

次に図書館費でございますが、二百十五万六千円、三十五万を増でございます。こゝろ主たるものは賃金でございます。

十八節備品購入でございますが、図書購入費で八百冊相当という事で九十万円、器具購入費関係で十四万四千円、その他は説明により御了承願います。

婦人会館費 十九万八千円、これについては二万一千円を増二つおちなるものは十五節の工事請負費、窓枠の修繕工事ということ増になっているわけでございます。次に五節目、市民センター建設費でございますが、先ほど申し上げましたように、四十二年度の年度割一億千七百五十八万円でございます。

十五節工事請負費一億千六百万円、十九節負担金補助及び交付金ということ、土地購入、利子補給分として、百五十八万をお願います。

次に保健体育費 四百九十二万六千円、三百二十五万

七千円、増二千主たるものは四十一年度にお願いいたしま  
した債務負担行為の二百八十八万円、支出が入ってち  
るわけでございます。

保健体育総務費から御説明申し上げます。

本年度百五十九万円、十五万九千円、増二千主たるも  
のはプール管理人の給料を除きまして十三節、委  
託料、先ほど文化祭で触れまして体育を別個に持  
つという関係から十一万円をお願いしてございます。  
十八節、備品購入でございますが、スポーツ教室の器  
具費関係で一万六千円、スポーツ少年団、壮年、体  
カテスト一万九千円、お願いしております。

二目、体育施設費でございますが、三百三十三万六  
千円、三百九万八千円、増でございますが、需用費  
関係におきましては浄化装置を取り付けたいま

に關係上、消耗品關係で四十三万二千円、淨化装置  
の工事請負費で二百八十八万、合計三百三十三万  
六千円になります。以上申し述べ、まゝて社会教育費、  
並びに保健体育費の説明を終わります。

(財政課長登壇)

財政課長(長谷川広治君)以上概略でございしますが、歳入  
の説明を終わらなければいけません。この結果から申し  
ますと、人件費で二億九千六百八十五万三千円というこ  
とに相なります。

構成比率は二九%ということになります。四十一年度  
から見ますと約四%の減ということに相なっております。  
物件費關係につきまゝ一億二千八百三万七千円構  
成比率は一三%ということになっております。四十一  
年度より一五%から考えますと二%の減になってお

ります。

維持補修費におきまして総額二千五百四十九万一千円  
ということになりまして構成比率は二%ということで  
ございます。前年度より一%減ということになります。

扶助費、補助費等におきまして一億八千三百九十六  
万六千円、その構成比率は一八%ということになってお  
ります。昨年度と比較しますと一%増ということに  
相なっております。

建設事業費におきまして二億九千三百二十四万三千  
円、構成比率は二九%で四%の増ということに相なつ  
ております。

なお、各節をトータルいたしますと、うち二三申し  
上げますと需用費におきまして六千六百六十五万七千

月、これを昨年と比較いたしますと、七百二十万増に相なっております。

需用費におきましては、保育園、幼稚園、小中学校、消防署、現業におきまして、約四〇%を消費いたしますが、昨年と比較いたしまして、伸びております。これは、大体、商工関係の需用費が二百七十万程度多くを占めております。

備品費におきまして、三千二百九十二万四千円でございますが、これは現業関係におきまして、七五%消費いたします。昨年に對しまして、八百六十四万九千円ばかり多くなっておりますが、このうち、小中学校、幼稚園等が五百六十万三千円、土木、グレイダーが三百万円等がおもなものでございます。

続いて歳入に移ります。

歳入のうち市税におきまして本年予算三億四千  
五百三十六万三千円を計上いたしまして。

このうち、たばこ消費税・電気ガス税におきましては、その  
ぞい四十一年度決算見込みに対して、前年程  
度より伸び率を掛けて計算したものでございまして、たば  
こ消費税・電気ガス税につきましては、おおむね歳入  
確保はできるものと考えております。

市民税におきまして、八百二十三万六千円、個人分で減額  
をしておりますが、これは昨年度より比率から見ます  
と、九四・四五％ということになっておりますが、大  
体現在より調定見込み額から推定いたしまして、約  
四百万程度の伸びしか見ておりません。

法人税におきましては、ほぼ昨年と同額でございま  
すが、四十一年度より当初予算から見ますと、二百五

十九万九千円ばかり増というところに相なっております。その比率は一五・二四％程度、伸張率を見ております。これは先ほど申しましたとおり、四十一年度の最終調定額とほぼ同額でございます。

固定資産税におきましては、前年度と比較いたしまして千四百二十四万四千円程度、増額をしておりますが、これは税法上の改正ではなくて、法定税率を用いたもので、そのほか、電電公社等、三公社分の固定資産に匹敵する交付金納付金で三百四十万ばかり伸びがございしますが、これは電電公社等の施設の改善に伴いまして伸びてございまして、歳入確保という関係では間違いないと思っております。

軽自動車税におきましては、前年度より減額しておりますが、最近、自動車税の調定工合から見ます。



と、漸次市税の分は減りつつあるというふうな状況から、昨年度に比べまして、九六・三四％という数字しか見ておりません。

都市計画税におきましては、固定資産税と同様の率でございまして、若干の伸びも見ております。

二款 国有提供施設等所在 市町村助成交付金として  
自衛隊関係の固定資産に類する金額でござい  
ますが、三百七十一万円、前年度より二十一万の増と  
いうことに相対しております。

三款 地方交付税におきまして、本年度予算額一億  
五千七百万円を計上いたしておりますが、こ  
は特別交付金として八百万円、普通交付金として一億四  
千九百万円を計上いたしております。

国庫計画では七％増というふうな数字でございま

すが、四十一年度実交付額から換算いたしましては  
 ほぼこの程度のものは交付されるのではないかとこの考  
 方のもとに計上いたしております。

四款分担保金八百七十一万六千円を計上いたしてございま  
 すが、これは、それぞれ歳出に伴いまして歳入さします  
 収入でございまして大きなものが民生費負担金と  
 して八百四十六万、これは、保育園の月謝に類す  
 るものでございます。

五款、使用料といたしまして、三千百十万三千円を計上  
 いたしてございます。

昨年より大幅に伸びておりますのは、住宅使用料とし  
 て昨年度、果実住宅を市営住宅として払い下げを  
 受けただけでございしますが、その分と四十一年度新たに  
 建築いたしまして市営住宅の使用料、それを百九

万ばかり見込みまして、その分が増額されております。大款国庫支出金におきまして総額一億千七百二十三円を計上いたしておりますが、これは歳出に対応する額でございます。それぞれ説明欄により御了承いただきたいと思います。

果支出金におきまして総額二千四百四十七万八千円を計上いたしておりますが、これも国庫支出金同様歳出に対応する金額でございます。歳出が執行されれば歳入もこの程度見込めるといふことで計上しております。詳しくは説明欄により御了承いただきたいと思います。

八款財産収入として総額五千六十六万四千円を計上いたしております。

このうち一項財産運用収入百十七万四千円は前年

程度の額でございます。

二項、財産売り払い収入として、四千九百四十九万を計上しております。

二のうち、二節、建物売り払い収入については、それぞれすでに契約済みのものが大部分でございます。二十四万八千円、土地売り払い代金として四千七百四十九万円を計上いたしております。二のうち、八百萬程度につきましては、道路関係の用地買収、それから元市営住宅の土地の払い下げ、そういうもので確定をいたしておりますが、三千九百萬程度につきましては、現在約九十六人の方、一萬三千坪程度のものを貸し付けいたしてあるわけでございます。これを払い下げてほしいというふうな要望もあります。なお、財産関係の確認事務を私たちが行ないつつ

あるわけですが、そういうものに、関連をいたしまして、  
本年度でできるだけ払い下げを——整理をいたさない。  
かように考えて三千九百万程度、ものを計上いたして  
おります。現在、状況から申しますと、大体五十名程  
度のものは払い下げを要しないという意思表示をいた  
してまいりますので、ほぼ収入になるのではないかというふ  
うに考えております。

九款寄付金におきまして、総額二千五百八十五万四千円  
を計上いたしてございます。

かわりまして、たまたまいたしましては、教育寄付金として  
七百七十六万八千円を計上いたしまして、先ほど歳出に  
千二百万ないが、高等学校施設負担金と申します  
か、寄付金に対応するものを各町村から御寄付いた  
だくということで、約四割、四百九十六万六千円を計上い

たっております。

ニ三ページ繰り入れ金につきましては、千六百五十万円を計上いたわけてございます。

財政調整基金の繰り入れを全額いたしまして、市民センターの建築費の工事費の一部に充てたいということを取りくずるを計画しております。

十一款の繰り越し金に本年度三千六百五十万計上いたしまして、昨年度より六百五十万ほど増加を見ておりますが、四十一年度の決算見込み額からいたしまして、ほぼ三千六百五十万程度は出るのではないかという考え方から計上いたしております。

次の諸収入、総額で八千九百二十三万八千円計上いたしております。

このうち、おもなものといたしましては、市一般会計の預

金利息として三百五十万、三項収益事業として競輪  
事業収入を四千四百万、これは四十二年年度の最終補正予  
算で四千七百四十万計上いたるわけでありすか、  
競輪収入は天候等によりまして大幅な移動がで  
ございます。一応当初予算では四千四百万というふう  
に計上をいたっております。それから貸し付け金  
元利収入等におきまして二目の開港公社貸し付け  
金、九百万、中小企業貸し付け金、元利収入二千  
万、勤労者厚生施設貸し付け金、元利収入二百万、  
それぞれ歳出に対応して計上いたしてございます。  
なお、雑入といふことで九百四十五万二千円計上いた  
っております。

こうちおもなものは生活保護費の精算分が、  
常に年度を繰りまして参りますので、その差額三百

十二万三千円が大きなものでございます。

十三款 市債として一億一千七百万円を計上してござ  
います。これは歳入関係から考えまして、住宅費、  
六百万円、土木費におきまして一般道路整備事  
業債として五百万円、消防債は消防施設に対する  
起債額二百万円、中学校債として房南中学校建  
築に伴う起債として一千万、市民センターの建設  
費として九千四百万円起債を予定いたしております。  
以上簡単でござりますが、歳入の概略の説明で  
ございます。以上で一般会計、歳入歳出予算の  
説明を終わります。

議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午後四時十分 休憩



午後四時四十七分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き公議を開きます。  
議案第四号 国民健康保険特別会計予算 歳入歳  
出一括説明を求めます。

(保健衛生課長 登壇)

保健衛生課長(池田亮山君) 議案第四号について御説  
明申し上げます。

予算書第一条 予算総額でございますが、事業  
勘定におきまして二億百二十五万七千円、直診勘定に  
おきまして千七百四十万円、合計二億千八百六十五万七千  
円というふうなことでございます。

また歳計現金の運用上不足を生じる場合、一時  
借入金より最高額は第二条にありますとおり千五

百万といふといふことでございます。

第三条の款内流用の範囲をあらため御承認願  
ひたいというところでございます。

各費目の内容につきましては事項別明細書により  
御説明申し上げます。

一四〇ページ。まず事業勘定の歳出から申し上げます。  
第一款総務費でございます。総務管理費で千百  
六十二万九千円。七十五万八千円程度が増額となつており  
ますが、主として人件費が増加しております。  
次に第二目、国民健康保険団体連合会、負担金で  
ございます。

四十六万四千円で十二万ほど増となっておりますが、これは  
国保連合会の負担金が若干増加にたりまゝのも  
の、なおもなものでございます。増加にたりまゝ

原因と申しますか。二つにつきましては、連合会が連合会  
事務所内に食堂を経営してゐたわけでありましたが、  
食堂の経営があまりかんばしくないと、その  
赤字補てんのために負担金の増加がございましたが、  
その原因でございます。

次に徴税費でございますが、二百七十万二千円でございま  
して、九万三千円が減となっておりますが、これは主として  
需用費の節減といふことと、減額でござい  
ます。

なお、二目、納税奨励費におきまして、四万二千円は  
どう増加となっておりますが、これは保険税の増額に  
伴う納税報償金の増加がその原因でございます。  
次に三項の運営協議会費でございますが、これは  
ほとんど前年同様でございまして、説明を省略

いたします。

四項趣旨普及費、これは五千円ほど減となつて  
あります。大体前年と大差ございませんで  
省略されていただきます。

次に二款の保険給付費でございます。療養給付  
費にふまゝ一億八千六十五万三千円でございます。  
前年と比較いたしまして、百三十八万六千円の減でございます。  
この積算につきましては別紙資料が提呈してございま  
すので、ちほどその資料によつて御説明申し上げ  
たいと思います。

次に二目の療養給付費でございます。

五百九十三万一千円でございます。

八十五万一千円の増加でございますが、これも同様に  
療養費の実績に基づきまして積算したもので

ございます。

三日の審査支払い手数料でございます。

百二万三千円でございます。ほぼ前年同様でございます。

次に二項の一目助産費でございます。八十八万五千円で二十一万五千円の増となっておりますが、これは先般条例によって御決議をいただきまして二千円を三千円に引き上げましたため増でございます。次に三項の一目葬祭費でございます。四十三万二千円で十六万八千円ほど減となっておりますが、これは前年度の実績に基きまして若干の減額をいただきわけでございます。

四項の育児手当金でございます。

三十五万四千円。これも四万二千円ほど減となっておりますが

こゝも実績に基きまして積算してございまして、別段  
り原因はございません。

三款保健施設費でございます。一目の保健婦設  
置費でございますが、二百四十六千円で十四万円が  
増でございます。こゝも主として人件費の増が  
おもなものでございます。

二目保健衛生普及費でございます。本年度は  
特に保健施設に力をいれまして、疾病予防という  
ことで精神病の検診、寄生虫駆除、乳幼児の  
検診等を行なう予定でございまして、それに伴  
う需用費、それから講師の謝礼等が見込まれ  
ておるわけでございます。こゝ中で十三節の委託  
料、四十万九千円でございますが、こゝは寄生虫の  
検査委託料を計上してわけでございます。

四款 基金積み立て金でございますが、存目でございます。  
五款 公債費、一時借入金、利子でございます。三十四  
万三千円を計上しております。

第六款 諸支出金でございますが、一目 還付金。  
これは保険料、過誤納還付金、それから国庫支出  
金、返納金等を考慮いたしまして、三億六千万円  
を計上いたわけてございます。

二目 還付加算金、一千万円計上いたしまして、前年と  
同様でございます。

二項 繰入金、金、直営施設勘定繰入金。こ  
れは一千万で存目でございます。

七款 予備費、百一十九万九千円。前年と大差ございませ  
ん。以上、事業勘定、歳入、合計、二億、百二十五万七千円  
というところでございます。

次に歳入について申し上げます。

一 款 国民健康保険税でございます。八千三百七十四万九千円。現年度が八千六十六万六千円でございます。これは調定額が九七%を収入見込みにして計上いたした金額でございます。これも別途資料によりまして御説明申し上げます。

滞納繰り越しがで三百十四万二千円を計上しております。これはつまりでは調定額が五〇%の収納を見込んであるわけでございます。

二 款 国民健康保険料でございますが、二万四千円。これは調定額が三〇%を見込んでございます。

三 款 四 款 いづれも存目でございまして省略させていただきます。

五 款 国庫支出金でございます。



一、項一目事務費負担金でございます。六百六十六万七千円・三十七万四千円、の減となっております。

二、目療養給付費負担金九千六百九万・千九百九十五万の減、国庫補助金、保健婦補助金三十八万八千円。

助産費補助金十九万六千円、財政調整交付金七百九万五千円、いづれも、うちほど、御説明申し上げたいと思っております。

第六款、果支出金でございます。果、国民健康保険事業に対する補助金でございます。

十八万七千円でございます。前年とほぼ同様の額が一応見込んでございます。

次に七款、八款、いづれも存目でございまして、説明を省略させていただきます。

九款、繰り入れ金でございます。一、項一目一般会計

繰り入れ金として五百八十万円計上してございます。

これは保険税の負担軽減の処置として一応一般会計予算から最終保証額と申しますか、保険税を軽減するにことによって赤字が生じました場合を補てんの繰り入れ金、これも保険税算出の資料によりまして御説明申し上げたいと思います。

次、直診勘定繰り入れ金、これは存目でございす。

十款繰り越し金、これも存目でございます。

十一款諸収入、延滞金、これは保険税の延滞金を実績に基きまして四十万円計上してございます。

次、預金利子でございますが、これは歳計現金の一時預金利子でございます。二十五万計上しております。前年同様でございます。

三項の雑入でございます。滞納処分費は存目でございます。

第三者納付金。これは前年と同様でございます。

三目、返納金でございますが、現年度分として十万円計上いたしております。

これは第三者行為によつて本来は第三者が補償すべきものを補償しないでそのまま保険を使用した場合に本人から返還を命ずるものでございます。雑入は存目でございまして、説明を省略いたします。以上歳入合計二億百三十五万七千円でございます。前年度に比べまして二十一万一千円、減額に相なっております。

参考資料により御説明申し上げます。

数字がたくさんございまして、細かい数字ははぶきまして

ニ、算式の方法と申しますか。そういったものについて、御説明申し上げていきたいと思ひます。

参考資料の二ページ、療養給付費の算定の方法でございませう。これは国または県から指示される方法に従ひまして算定しているわけであります。

要約いたしますと、療養給付費の中を入院と入院外と歯科診療、この三通りに分けてそれぞれの算出をするわけでございます。算出の方法は三者とも同じ方法を用いております。

まず入院の表でござんたいと思ひます。

根本的な考え方といひまして、保険給付費は年々移動するわけでございます。例年がこれだけだから今年もこれだけで済むだろうという、これは考えられないわけでございます。

私どもはこゝ算式によりまして過去三年の実績に基  
きまゝのものによりまして本年度の予算を積算しよ  
うというものでございます。つまり昭和三十九年の  
四月から九月まで十月から十二月までなせ十月か  
ら十二月までで算式をいたかというのと四十年一月一日  
に行なわれまゝのところ医療費の緊急是正と七  
割給付の実施がなまなま当市では同時に行なわれな  
わけでございます。従つてこれ以前の実績はここに数  
字で示してございますとおりに出ておるわけでございます。  
ただ七割給付も緊急是正も行なわれていない実  
績でございます。一かもこゝ予算を編成いたします  
当年度の四十一年度の実績と申しますと四月から九月  
までの実績しか出ていない。

御承知のやうに診療はいたしまして八月から支払ひ月に

至るまでには、三ヵ月ずいが出てくるわけでございます。  
従つて本予算案を編成いたします。當時には、四十一年  
の九月まで一ヵ月実績が出ていない。従つて半年ずつの  
実績に基きましてのちう半年の実績を推定せざる  
を得ないわけでございます。要するに三十九年度の全  
般の実績に医療費緊急是正の補正というところが  
ございますが、全国補正率でございますが、これを掛け  
ます。なお、七割給付の補正率がございます。

二ヵ月率を掛けまして、おまゝにもうが要するに現在と同じ  
状態で七割給付。緊急是正が行なわれ昭和三十九年  
四月から九月までの実績。被保険者一人当りの医療  
費の実績、こういう推定ができるわけでございます。  
つまり、現在の給付の時点で過去で行なわれなかつた  
ものを現在に引き戻してくるわけでございます。

さうにして四月から九月までが前半の実績と年間の実績とを上げ率といひますか。動きといひますか。そういふものをとらえようといふのがこの方法でございます。四十一年度の実績が前半から出ておりませんので、四十一年度のあとが半年分の実績を計算しますために過去においても半年分の実績から割り出してこの方法を取るといふことでございます。従つてその方法が三十九年度と四十年度の前年と年間という率を見てゐるわけでございます。前半の実績、この場合には三十九年度につきまゝでは先ほど申しましたように補正率を掛けました推定でございますが、それと四十年度の前年と後半という実績の開き、そういうものを除きますと、二年間を平均し伸び率を見てきます。そうしますと、二分之一のものは三十九年と四十年という

半年が一年に及ぼす影響をここで積算したわけで、  
でございます。

二・〇三一九という数字がございます。二が、三十九年度  
四十年、前半に対する平均額でございます。

そうしますと、その次、四十一年度の前半の実績が  
出ておるわけでございます。その実績に二・〇三一九と  
いう数字を掛けますと、四十一年度の年間一人当り  
の推定額が出てくる。こういう仕組でございます。  
それからなお、自然上昇率を見ております。

三十九年から四十年、四十年から四十一年の自然  
上昇があるわけでございます。変診率の上昇と  
か、一人当りの医療費の伸びが出てくるわけでござ  
います。

緊急是正が行なわれたことにより、逐次加速度的



に保険料が上昇していくのが一つと。それから自然的に  
受診率が増加していく。そうした場合も両方とも  
加味して四十二年度の医療費の一人当りを算定し  
たい。二ういう必要があるわけでございます。二が  
四十二年度年間額というところの計算してあるわ  
けでございます。つまり二千百九十五円十二銭五厘  
という数字がござります。二が四十二年度の一人当  
りの医療費でございます。入院の場合でございます  
す。それに上昇率が一・一〇七という過去三カ年の平  
均上昇率。二を掛けますと四十二年度の実績から  
四十二年度へと上昇しますものの数字が出てくるわ  
けでございます。従って二にまうて出ましたものが入  
院一人当りの額が二千四百三十八円十二銭五厘とい  
う数字が出ております。二が二入院一人のみの対象

にいた計算ではございません。入院費といふものを総  
 被保険者により除いた数字でございます。  
 同様に三ページは入院外のものでございます。  
 四ページは歯科診療でございます。いづれもその  
 額を総被保険者で除いた数字でございます。  
 かようにして計算しますと二千四百三十八円十  
 二銭五厘。入院外は五千四百九十四円七十四銭  
 六厘。歯科については七百九十二円十六銭三厘とい  
 う数字が一応算出されてくるわけでございます。  
 これを合計しますと八千七百三十五円三銭四厘  
 二が、四十二年度における医療費一人当りの額で  
 あるという推定でございます。

次に被保険者数。二万八千八百五十八人。掛けま  
 した数字が二億五千百七十一万七千二百三十一円という数字

が出ております。そこに薬剤費を加えまいか、療養給付費の総額でございます。二億五千二百四万四千四百四十四円でございます。

なお、そこから結核予防法等によります国庫で負担する経費でございます。それを三百九十六万六千三百円と推定いたしまして、これを引きまいか、補助対象額となっておりませんが、これが総医療費でございます。こゝが、うちほど御説明申します療養給付費負担金、国庫支出金、対象費用額としておつてくるわけでございます。こゝが割給付でございますから八百四十七万二千五百二十六円、これが療養費の総額でございます。

次に療養給付割合を掛けまいか、一億七千三百六十九万八千五百四十七円、これが予算に計上して

でございます。

それから次の五百九十三万円というものは、先ほど間接  
えて申し上げました療養費と割給付分でございます。  
ます。これが予算に計上してございます。以上が療養  
給付費の予算額を計算する基礎でございます。  
次に歳入の部分でございますが、五ペーシ国庫支出金  
事務費負担金でございます。

本年度予算計上しておりますものが、六百六十六万六  
千円でございます。これは被保険者一人当りの額と  
いうものをえいて計算してあるわけでございます。  
事務費は、段階別補助方法を取つてあるわけござ  
います。二万八千人から二万九千人の間は幾らと  
いう基本額があるわけでございます。二万八千八百  
五十人でございます。ただ今申しました四百六十万

四千七百四月というのが補助金の基本額でございます。  
それに世帯構成員の比率によります。補正率を  
掛けたいが事務費の負担金だというわけでは  
ございません。これが当市は三・五人でございます。従つて  
補正率が一・一七でございます。なお増加見込  
み額で四十一年度で政府が積算してありますもの  
でございますが、四十二年度は二より若干上  
回わるだろうということでございます。それが  
一・二三つまり二三%の増加額を見ております。  
これが六百六十六万六千円を積算の基礎になつて  
おるものでございます。

次に療養給付費負担金。現年度分でございます。  
これは先ほど申し上げましたように療養給付費と療  
養費の支給額と合計いたしまして四〇%

を必ずしも交付しなればならない規定になつてあります。  
 但し、当該年度におきまして一〇〇%交付というわけに  
 いきませんので、これを九〇%に見ておるわけでご  
 ざいます。

以下交付率につきましては、果う強い指示がございま  
 療養給付費に對しましては、九〇%の交付率で予  
 算編成をするようにということでございますので、九〇  
 %を採用してまいります。この数字が、九千四百六十六  
 五千万として、予算計上してあるわけでございます。  
 前年度より予算額より減少しております。関係は、  
 前年度は予算編成上の操作といつてございまして、一〇〇  
 %交付を前年度は計上したわけでございます。

二に減額の原因が生じてきておるわけでございます。  
 なお、過年度分でございますが、これは、四十一年度で

交付されたものの残り、いわゆる九五%が四十一年度で交付される見込みでございます。残り九五%が過年度分として四十一年度に持ち越して交付されるものと見込んでおります。四百六十二万五千円でございます。次の保健婦補助金でございます。三十八万八千円で保健婦に要する経費の三分の一。交付率は九七%に見ろということでございます。

助産費補助金、一件が二十円としてのそう三分の一を交付するというところでございます。

従って当市は四十一年度におきましては、三十円に増加いたしまして、三十円が三分の一でなくて、依然として国は二十円、三分の一を交付するというところでございます。次に普通調整交付金でございます。これは、四十年度の実績の九五%を見ろということでございます。

六百五十万、九〇%を見て五百八十五万円でござい  
ます。国の方針といしましては、総医療費の五%を全  
国に配分するということでございます。

まことに普通調整交付金は不安定な交付金で  
ございます。

特別調整交付金でございますが、これは低所得者層  
の減税いたしまして、部分について、そのもとずばり交  
付してはございます。これは前年度の  
実績が百二十四万五千六百円でございまして、四十  
二年度も同じくこの程度のものが見込まれるで  
あろうというところで、計上したわけでございます。  
これは、国庫支出金、金額でございます。合計一  
億四千四百三十三万五千円でございます。

次に歳入で一番重要に考えられます。保険税の算出



でございます。

保険税の算出の方法を本来は療養給付に要する経費から直接割り出す方法が取られておるわけでございます。地方税法にも、そのように示されておるわけでございます。

その方法でございますと、膨大な数字が成り立ちますので、歳出の総額から保険税の現年度分を除き、ましてその総額を保険税として収納額に充てない。という方法も前年から取っているわけでございます。歳出総額が二億百二十五万七千円でございます。

そうして、現年度保険税を除きます。歳入の総額が、国庫支出金を含めまして一億一千四百八十五万一千円でございます。従いまして、差し引きますと、八千六百四十万六千円が保険税として収納しなければ歳

入歳出バランスより取れない数字ということになるわけでございます。一カーニの数字を収入に見込みますことは世帯当りで考えますと二割八分程度が増額しなければおさまりがつかないわけでございます。これではあまりに増加の率が大きくなるであろうというところで軽減の措置額として五百八十万円を計上して、これを控除する方法を取ったわけでございます。そうしますと予算計上額が八千六十万六千円、これだけ保険税として収納すれば歳入歳出バランスが取れるというところでございます。

八千六十万六千円を逆算いたしまして調定額を幾らにするか、課税総額をというふうにするかという積算がそう下り欄でございます。

八千六十万六千円というのを、収納率を九七％に見た場

合、調定額は八千三百九十九万九千月とタリ、八千三百九十九万九千月を調定するに、一人別、最高限度額、数字、低所得者、減税分、そう、い、た、も、を控除する必要があるわけ、て、ご、い、ま、す。それ、を、引、き、ま、い、た、も、が、それ、を、一、千、九、百、の、歩、ど、ま、り、を、見、に、わ、け、て、ご、い、ま、す。従、つ、て、八、千、七、百、八、十、万、六、千、月、と、い、う、賦、課、総、額、を、要、す、る、に、税、率、の、基、礎、と、な、る、数、字、か、ら、今、度、に、逆、に、申、上、げ、ま、す、と、低、所、得、者、層、の、減、税、分、を、引、き、ま、い、て、九、六、の、の、歩、ど、ま、り、を、見、ま、い、た、も、が、調、定、額、が、八、千、三、百、九、十、万、九、千、月、で、ご、い、ま、す。

なお、それに収納率、九七%に見たときに八千六十九万九千月と、い、う、数、字、が、出、る、と、い、う、こ、と、で、ご、い、ま、す。

これを世帯当りで負担額で考えますと、一万二千七百七十九月と、い、う、数、字、が、四、十、二、年、度、の、調、定、額、で、ご、

ございます。

前年度の実績から比較いたしますと、ちょうど一〇%の値上りというところでございます。

実績からいうと、四十一年度のこの時点の一世帯当りの平均額が九千四百八十二円でございます。これを比較いたしますと、八・三%の増ということが考えられるわけでございます。これが一応保険税を算出して計上した額であらまう説明でございます。なお、ここで一例を上げますところ、税率で一体保険税はどの程度になるだろうかということ、世帯当りの実際でございます。

所得割と資産割の基本がつかめておりませんので、均等割、平等割がややつかめるわけでございます。均等割が一人当り千二百四十円程度、世帯割が千八

百四十六月程度になるだろう。合計三千九十四月年間  
額でございます。

なお低所得者層、減税があるわけでござります。その  
減税が本年度は一号該当所得十萬以下の人でござ  
いますと千七百二十七月、減税となります。

均等割で七百三月、平等割で千二十四月、減税とな  
ります。これに該当します。世帯は千七百二十七月、減  
税がなされるわけでござります。従って三千九十四月  
、税額から千七百二十七月を減税いたしますと、実際納  
付していただきます。こゝ世帯の年税額が千三百六  
十月でござります。

いろいろかかるとか高いとか言われますけれども先ほど  
から給付費のところでも申し上げましたとおり、一人当  
りでさえも八千七百月、医療費でござりますから

二、七割の給付を受けているわけでございます。  
二、これに対する保険税としての賦課額がただ今申しま  
した最低の方ですと千幾らで済むということござ  
います。

保険税が高い、かかることは確かにおもしろくない現象  
でございしますが、医療費の伸びと考え合わせますと、  
やはりこの程度はがまんしていただきたい数字ではな  
いだろうか。というふうに私たちは考えているわけでござ  
います。なおセベージ・ハページに各市の保険税  
の四十一年と四十二年の一人当り世帯当りを参考  
に上げてまいりました。

以上わかりにくかった点があろうと思ひますが、これに  
つきましては御質問によつて補足さしていただくこと  
にいたします。

直診勘定につきまゝでは事務長から御説明申し上げ  
ます。

議長(田中祿郎君)本日、会議時間は議事、都合に  
よりあらうか、二、三を延長したいと思ひます。  
二、三に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて会議  
時間は延長さうまいだ。  
続いて説明を求めます。

(豊房診療所事務長登壇)

豊房診療所事務長(平柳徳蔵君)一四七ページ直診施  
設勘定、歳出について申し上げます。

総務費でございますが、八百二十六万三千円、二百六十二  
万三千円、増額でございますが、これはおもに人件費

増加に基くものでございます。

節におきまして給料四百一十七千円。これは二名の取資の増加。それから給与改定に基きましてこういう額になるものであります。給料・取資手当及び共済費を合わせまして二百十五千円の増になります。賃金以下は経常費でございます。ほとんど前年と同様でございます。で説明欄により御了承願いたいと思ひます。

二款医業費でございますが、六百三十三万二千円。昨年と比べまして三百五十万三千円増加でございます。

おもな理由といひましては、医療用機械器具費でございます。四十二年度は三十九万五千円、増を計上いたしたものでございます。五十二年三万三千円、増を計上いたしたものでございます。



次に医療用消耗品器材費で昨年に比べて九万増  
診療の増加に伴いまして消耗品も増加いたしま  
して、昨年の実績に基づきまして計上いたものでござ  
います。次に医薬品衛生材料二百七十八万円の増  
これも診療の増加に伴いまして増額でございます。  
以下は昨年と同様でございます。

次に三款施設整備費でございます。二百十二万  
八千円でございますが、本年年度医師住宅の建築  
と計上いたしまして、その内容といたしましては、大体  
二十坪、車庫五坪、敷地として五十坪、購入を  
予定してございます。

次に公債費でございますが、三十八万六千円、これは診  
療所庁舎の借り入れ金と元金利子の償還金で  
ございます。

第五款 存目でございます。第六款 予備費で  
二十五万九千円で五万九千円増となっております。  
以上歳出入合計 千七百四十万となっております。  
次に歳入でございますが、第一款 診療収入、入院収  
入 三百九十四万一千円でございまして、二百六十三万  
四千円増となっております。

大体 国民健康保険診療収入 百五件、百九十五万六千円  
社会保険 四十三件、八十二万五千円、一部負担金収入ニ  
つは上記のものと対する一部負担金でございます。  
次に、二項 外来収入でございますが、千二百八十三万一千円、  
五百十三万七千円増となっております。

その他 診療収入でございますが、これは検査収入で  
ございます。昨年に比べまして三万円の減額にな  
っております。

次に二款使用料及び手数料でございますが、七千円を計上いたしております。

次に三款国庫支出金三十九万五千円、四款県支出金十九万七千円でございますが、これは医師住宅の建設に伴う国庫並びに県支出金でございます。

以下存目でございます。以上歳入合計千七百四十万円にしております。

議長（田中祿郎君）議案第五号 館山市簡易水道特別会計予算 歳入歳出一括説明を求めます。

（衛生施設課長 登壇）

衛生施設課長（吉田耕一君）議案第五号につきまして

御説明申し上げます。

簡易水道会計でございますが、四十二年度から従来簡易水道会計としてやっております。

或いは波左間水道であつたわけでございますが、四十二  
年度から宮城上水道を簡易水道といひまして  
この会計に一本にして簡易水道特別会計になつたわ  
けでございます。

この会計は歳入歳出予算の総額をそれぞつと八  
十六万八千円といひたい。

以下款項の区分等金額につきましては次の  
第一表歳入歳出予算によりまして御了承いた  
だきたいと思ひます。

明細書によりまして内容を詳しく説明いたしたいと思  
ひます。

まず、歳出の一六ページ本年度三百十八万四千円を  
願ひしようというものでございまして、管理費につま  
しては從來やつております必要経費を各節ごとくに計

上いたしておりますので説明により御了承いただきたい  
と思うわけでございます。

水道管理費でございますが、四百六十六万。昨年対比  
四十六万二千円増でございます。

そのおもしろものは十五節の工事請負費におきまして  
宮城浄水施設、南条配水施設、屋舎の改造、鉈切  
水道の水中ポンプの設置等が工事請負費として  
計上しております。合計百二十四万を占めておりますとい  
うものでございます。

他の費目につきましては説明によりまして御了承  
いただきたいと思います。

次に歳入でございますが、これに要します歳入を一定  
負担金、使用料等に求めてあるわけでございます。  
使用料におきまして七百七十四万二千円を見込んでわ

けでございまして、これは昨年より当初に比べまして五千  
四万余円の増、四十一年度の現在より収入状況から  
見まして、この程度よりは見込めるという見通しを付  
けましたので、この程度の増を見込んでございま  
す。以下説明により御了承いただきたいと思います。  
まず、歳入歳出とも八百六十三万八千円といいたいと  
考えておるわけでございます。以上でございします。

議長（田中康郎君）議案第六号、館山市と畜場特別  
会計予算の説明を求めます。

衛生施設課長（吉田耕一君）と畜場特別会計について御説  
明申し上げます。

予算書の三七ページから御説明申し上げます。この  
会計につきましては、歳入歳出とも五百三十五万一千  
円を見込んでおるわけでございまして、細かい款項

区分等につきましては別表第一により御了承願いたい  
と思うわけでございます。

明細につきましては明細書の歳出一七三ページ、事業  
費四百九十三万四千円、昨年に比較しまして百万余  
の増となるわけでございますが、おもなものといたしま  
ては、昨年より一月以降から解体と夫の雇い入れを  
正式に市が雇い入れていくという方針を取ったため  
に料金の改定に伴いまして、こういう結果を見たいわけ  
でございます。賃金も増、十五節工事請負費  
でと畜場の井戸の水が足りないので、今回井戸を  
掘りまして給水に使用したいと考えております。  
或いはと殺殺の増加に伴いまして、繋留所が狭  
くなってきたということから、拡張工事をしたいとい  
うことで両方合わせまして、百万円計上いた次第

てございます。

以下二に必要経費を各節別に計上してござい  
ますので、説明により、御了承いただきたいと存じ  
ます。

歳入につきまして御説明申し上げます。事業収入でござ  
います。が、五百五万を見込んでございまして、昨  
年対比八十多万多く見ておりますが、と殺数が増加、現在  
の収入状況から見ましても、この程度の使用料は見込め  
るという考え方でございます。

他にございましては、大体昨年を基準といたしまして  
計上した次第でございします。

合わせまして、この会計の総額と歳入歳出とも、五百三  
十五万一千円といたないと考える次第でございします。  
なお、取費の給与明細書、或いはまた起債に關します調



書は一七六ページ一七五ページにございます。御参照  
いたゞきたいと存じます。以上でございます。

議長(田中祿郎君) 議案第九号 館山市南部簡易水  
道事業特別会計予算。

衛生施設課長(吉田耕一君) 続きまして新設します南部  
簡易水道特別会計につきまして御説明申し上げます。  
四十二年度、三年度におきまして富崎地域を中心として  
神余からうね線を含めます。区域の簡易水道を実施  
するというところでございまして、これに對します経費一  
億六千万余円を見込んでおるわけでございますが、四十  
二年、三年と二カ年継続事業で実施いたしますことに考  
えております。四十二年度におきまして歳入歳出と  
も一億七百二十八万二千円ということに進みたいと考え  
て上程する次第でございます。

なお款項の区分等につきましては別表第一により  
御了承いたしたいと思います。

なお法の規定によります継続費の総額、或いは半割額  
等につきましては第二表により御了承いたしたいと思います。  
考える次第でございます。

それから地方債の目的、限度額、方法、利率、償還の  
方法等につきましては別表第三により御了承いた  
きたいと思います。

明細書は二ページ歳出から申し上げます。

事業費におきまして一億六千九十八万六千円を  
願います。

この事業におきまうといはれましては、十五節の工事  
請負費におきまして一億円を計上させていただきます。

大体、総工事費に対して六五%を初年度に見込むという  
考え方で一億円を一応見込わけでございしますが、それに  
加えまして、なおほかに単独事業費として計上されてま  
すものを九百万程度見込みまして一億円を計上した  
一まゝです。

十六節 公有財産購入費でございしますが、用地の購入で  
ございします。

貯水池の用地並びに浄水池の用地に二百三十万円を  
見込んで計上した次第でございします。

その他につきましては、この事業を推進するため、必要  
経費を各節に計上いたしたわけでございします。うで  
説明にすぎ、御了承いただきたいと思います。

次に歳入でございしますが、本年度、国庫支出金にふきま  
して二千三百九十六万円を見込んでおるわけでご

ございます。果支出金 六百三十九万円。繰り入金  
二千六百九十三万円。市債五千万等が主なも  
のでございまして。歳入歳出とも一億六百二十八万三  
千円といたーないと考える次第でございます。

なお、地方債の調書並に継続費に伴います調  
書につきましては二〇四ページ、二〇五ページにございま  
す。この表により御了承いただきたいと思います。  
以上でございます。

議長（田中祿郎君）議案第七号、議案第八号、説明  
を求めます。

（商工観光課長登壇）

・商工観光課長（小沢正治君）議案第七号、館山市休養  
施設特別会計について御説明申し上げます。

四十二年度より休養施設特別会計、予算は歳入歳

おそれぞい二千八百四十二万三千円と定める。歳入歳出予算の款項区分及び当該区分等々の金額は第一表に  
よるといふことでございます。

内容に關しまゝては明細書によつて御説明申上げ  
ます。

一八三ページ歳出、経営費、一般管理費につまみ  
ては、こゝは人件費でございます。事務部門三名  
調理士二名、応接員八名計十三名の職員の人件費  
でございます。

経営に關しまゝては最近国民宿舍というものが各地で競  
争的に建設されて参りまして鳩山荘といふとも立地  
条件が有利さを單に誇つてゐるような形ではなかつたか  
経営の前途が容易でなくなつて来たということも考  
えらるわけでございます。

従いまして本年度は多少経費を投入いたしまして  
環境整備、それから夏季の対策といいたしまして  
今まで各部屋に扇風機がなかったりでございます  
が、これを新たに購入いたしましてサービスしたいと  
いうことでございます。

一般の経費費に関しましては、多少の値上げ程度  
の差でございまして取り立てて申し上げることはござ  
いませんけれども、工事請負費の八十七万六千円と備  
品購入の六十九万円、この中で環境整備と備品  
の整備によってそういう方向に努力して参りたいと  
いうことを一応計画しておるわけでございます。

公債費につきましては二百六十三万七千円で同額でござ  
います。

これに見合います歳入といいたしましては一応前年度の

実績を基礎といひまして、事業収入におきまして、  
二千六百九十三万六千円、各項目別に計上してございま  
す。

総体といひますと、前年度対比、二百二十三万程度、増  
額というところで計上しておるわけでございます。

次にユースホステル会計でございますが、これは、遺憾なが  
ら、四十一年度も赤字見込みという形がございまして、  
実際には、三月、実績如何で固まるような状態にな  
るわけでございますが、四十三年におきましても、四十  
一年当初と同様に利用人員七千人を何とか突破させ  
たい。こういう願いをこめて、前年度当初と同額、も  
うを計上してございます。これも別段かわつたことは、  
ございませんけれども、工事請負費におきまして、天  
井、空気孔、工事を計画しております。

前年度と若干違ふ点は四十一年度で定員三名を  
計画したうでございしますが、本年度は一応二名で実  
施したいという程度で違ひてございます。

歳入におきましても、前年度と同額でございますので  
一応説明を省略させていただきます。

議長（田中祿郎君）（この際会議日程についておはかりいた  
します。）

去る十一日に決定された会議日程中、二十日以降の  
日程につき議事を都合により、ただ今、お手元に配付  
のとおり、変更したいと思ひます。ここに御異  
議ありませんか。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ないと認めます。よつて会議日  
程は変更された。



本日より会議はこけにて散会とします。

次回は明十六日、十七日を議案審査のため、休会と  
し、三月十日午前十時開会といたします。

その議事は通告による行政一般質問を行ないます。  
なお通告は明十六日正午までに御提出下さるまう  
お願いいたします。

午後六時十一分散会。



本日、會議に付いた事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

菊井 敏博

志村 信作

小沢 恵太郎

関 武夫

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

鴻田 繁

山田 敬宇

鈴木市蔵 安藤亀吉

三沢節 高橋文治

山本昇 松本藤太郎

山口康

大席議員

田村源治郎 黒川佐太郎

西村真次 萩生田七郎

安沢徳順

大席説明者

一 第一日目以下同ト

大席事務局取員

一 第一日目以下同ト

